

令和4年度 高鍋町立高鍋東中学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）4段階評価 【 A・・・よい B・・・概ねよい C・・・あまりよくない D・・・よくない 】

| | |
|-----------------------------|---|
| 教育目標 | 自立の精神に燃え、広く敬愛する心を持ち、たくましい創造力を発揮する生徒の育成に努める。 |
| めざす学校像 めざす生徒像 めざす教職員像 | ○笑顔と活気にあふれた学校 ○歴史と伝統を重んじる学校 ○地域に根ざした学校 ○ (ハ) 人を思いやり、ふるさとを愛する生徒 ○ (カ) がまん強く、学び続ける生徒 ○ (シ) しなやかさをもち、心身を鍛える生徒 ○ともに学び、考え、挑戦し続ける教職員 ・生徒と夢を語り、確かな力をつける教職員 ・生徒の心をつかみ、気づき、動き、見届ける教職員 ・生徒の手本となり、尊敬される教職員 |
| 本年度の重点目標 | 1 豊かな心と品性を高める 2 授業力を高め、学力向上に努める 3 信頼される学校をつくる 4 伝統を守り、発展させる |

| 評価項目 | 方策・手立て | 評価指標 | 自己評価 | | | 学校運営協議会委員評価 | | |
|-----------|--|--|--|--------|---------------|---|--|---|
| | | | 指標 | 総合 | 結果の考察・分析・改善策等 | コメント | 評価 | |
| 高鍋町重点指導事項 | 【知】 授業改善 家庭学習習慣の定着 | ○ 指導力向上を目指した教材研究を通して授業改善に努める。 ○ 授業で学習したことを家庭での復習につなぐために、家庭学習のノートを提出させる。 ○ 概要を振り返り、家庭での学習内容や方法を考えさせる。 | ○ 「わかる授業」をめざした教師の指導力の向上を図るため、授業が分りやすいと答える生徒を80%以上にする。 ○ 自分から進んで家庭での学習に取り組む生徒を80%以上にする。 | B B | B | 授業ではICTを積極的に活用したり、学習の形態を工夫したりして授業全体の改善を図っている。学習内容の確実な定着を目指し、タブレット端末の活用を図りながら、復習や家庭学習や学力の低～中間層への手立てを考えていきたい。 | ○ ICT、タブレットの活用は良いと思う。 ○ 「分りやすい授業」についての評価が、保護者と生徒の間に差があるのはなぜか考えてほしい。 ○ 書籍等で調べることも必要ではないか。 | B |
| | 【徳】 基本的な生活習慣の定着 新明倫の教えの推奨 | ○ 学校教育活動全般を通して率先した「あいさつ」「返事」「靴並み」「整理整頓」を体得させる。 ○ 『明倫堂の教え』を学級で素読、暗唱する。 | ○ 日常生活の土台となる「あいさつ」「返事」「靴並み」「整理整頓」「大きな声で校歌を歌う」の習慣化を図る。 ○ 社会的なマナーが身に付いている生徒を80%以上にする。 ○ 学校・家庭・地域において「明倫堂の教え」を推進し、80%以上の生徒が実践できる。 | B B | B | あいさつや整理整頓は、個人差が大きい現状がある。「明倫堂の教え」は毎日の素読により、暗唱はできている。あいさつや整理整頓は、その場での実践を重ねていきたい。また、「明倫堂の教え」の内容理解が進められるよう次年度は計画していきたい。 | ○ タブレットを使った授業は更なる指導方法の改善を期待する。 ○ あいさつ等は、生徒はできていると思う。これからも指導が必要である。 ○ 生活の中で、これまでのマンガがスマートフォンに変わっただけあまり変化はないと思う。 ○ スマホ等の課題は、小中高で連携してほしい。 ○ 地域との連携ではコロナ後の活発な活動を望む。 ○ 防災は学校・地域にとって共通の課題であり、今後も継続協議できるとよい。 | B |
| | 【体】 生活のリズムの確立 | ○ 早寝・早起き・朝ご飯について、学校だよりや学級通信等で啓発する。 ○ 1130県民運動（1週間に1回以上30分以上の運動をする）を日常的に推進する。 | ○ 早寝・早起き・朝ご飯の実践者（生徒・保護者）数を90%以上にする。 ○ 1週間に1回以上30分以上の運動をしている生徒を80%以上にする。（授業は含まず、部活動等は含む） | B B | B | スマートフォン等の利用が多く、生活リズムが整わない生徒が多くいる。車による送迎も多く、体力面でも心配がある。使用のルールの徹底、自力登校を促すなど家庭の指導をサポートしていきたい。 | ○ 様々な問題について家庭の指導や連携は、困難を伴うが根気強く取り組んでほしい。 | B |
| | 【信頼される学校づくり】 学校運営協議会の充実 幼保小中高連携の推進 | ○ 学校運営協議会のリーダーシップ、実務者会議の機動性の発揮、地域コーディネーターと連携した取組を行う。 ○ 学力向上や防災訓練、各種行事等における幼保・小・中・高等学校との更なる連携を図る。 | ○ 学校を地域や社会に開き、「地域の力」を学校経営に生かし、70%以上の生徒・保護者が十分実感できている。 ○ 幼保・小・中・高との連携の在り方を模索し、連携した行事等を5回以上とする。 | B B | B | 今年度は読み聞かせ、職場体験学習で地域の力を借りることができた。まだコロナの影響により機会が減っている。今後回復する中で積極的に活用を計画していきたい。小中高の連携は内容を吟味し、充実したものにしていきたい。 | ○ 様々な問題について家庭の指導や連携は、困難を伴うが根気強く取り組んでほしい。 | B |
| | 【知育】 分りやすい授業の実践 読書の推進 | ○ 授業の中で理解が進まない生徒への支援方法を全職員で研究し、指導力の向上を図る。 ○ 読書環境の充実に努めたり、読書感想文等のコンクールにも積極的に応募し称賛したりする。 | ○ 授業が分りやすいという生徒を80%以上にする。 ○ 本を読む習慣が身に付いている生徒を80%以上にする。 | B B | B | 読書については個人差が大きく、習慣が身につけていない生徒が多い。登校後の時間を活用するなど、短い時間でも良書に触れる時間を確保することが必要と考える。 | ○ 校内図書館の利用を促進するべきである。 ○ 授業に参加するのが楽しいと思える生徒が増えてほしい。 ○ 高校生が協力できる場面があれば言ってほしい。 | B |
| 徳育 | 豊かな心の醸成 | ○ 道徳の時間の指導を充実させるとともに、様々な行事（命を大切に教育週間等）や体験活動を通して社会的なマナーや優しさ、思いやりの心を醸成する。また、マイスクールライフ（生活の記録）を通して担任と生徒とのやり取りを毎日きめ細かく行うとともに、アンケートや教育相談によって気になる言動の早期発見と対応を行う。 | ○ 優しさや思いやりの心を大切にしているという生徒を80%以上にする。 | A | A | 心無い言葉、言葉遣いが気になる面があり、人間関係のトラブルを誘発した事例もある。学級や学年全体で継続した指導をしている。指導の場面を見過ごさずその都度行なっている。道徳の時間、学校生活を通して思いやりの言動の紹介をしたり、家庭と連携したりしながら、全体での指導を進めたい。生徒も主体的に活動しているが、他人と関わるソーシャルスキル学習を取り入れ、自己存在感、自己有用感を高めていきたい。 | ○ トラブル発生後にどう指導するべきかのアンケートも必要ではないか。 ○ ともに学校が楽しい、周りの人に思いやりの心をもって接していることにより高い値を示していることが良い。 ○ 各学年で、年に1度は石井十次を道徳で取り上げてほしい。 | A |
| | 一人一人の居場所づくり | ○ 授業をはじめ、係活動や委員会活動、ボランティア活動、部活動などのあらゆる学校生活の中で、生徒の適性に応じた活動場を工夫する。 | ○ 学校が楽しいと感じている生徒を80%以上にする。 | B | B | | | |
| 体育 | 体力の向上 | ○ 一人一人の新体力テストの実態を把握させながら、体力向上プランに基づいた体育指導や部活動等指導に努める。 | ○ 新体力テストにおいて、各学年男女4項目以上で県平均を上回る。 | C | B | 自力登校をはじめ、運動頻度が少ない生徒が多くなっている。食育は栄養教諭を中心に進められているが、偏食に対する指導が難しい面がある。学校と家庭との連携が必須であり、継続した指導をしていきたい。 | ○ 状況を考えすぎないよう生徒と接してほしい。 ○ 体力、食育は一生大切なものなので、将来を見通した指導をしてほしい。 | B |
| | 食育の推進 | ○ 学級活動や給食時間、「弁当の日」の取組等を通して食育を推進する。 | ○ 「弁当の日」の実践において、弁当づくりに関わる生徒を80%以上にする。 | A | A | | | |

| | | | | | | |
|-----------|---|--|---|---|---|---|
| 地域・家庭との連携 | ○ 参観日や学校・学年・学級だより、さらにHP、安心安全メールなどで家庭や地域との意思疎通を行う。地域でのあいさつ運動を地域とともに推進する。 | ○ 学校からの配布物を保護者に渡す生徒を90%以上にする。 ○ 家庭と学校が意思疎通をきめ細かく行っていると感じる保護者90%以上にする。 | B | 整理整頓ができなく、配布物のやりとりで慌てる面がある。メールの添付、Web返信を広げていきたい。家庭訪問や電話連絡を頻繁に行なっているので、お互いの意見を聞ける場も大切にしていきたい。学校の様子については、毎日ホームページにアップし情報発信することができた。 | ○ 保護者同士の連携が必要ではないか。 ○ 私たち地域も考えねばならないと感じる。 ○ 「明倫堂の教え」の実践を小中連携して行えるとよい。 | B |
| 伝統活動の継続 | ○ 正姿黙想や無言清掃、目立てをすべての生徒に確実に実行させる。伝統活動の意義や母校に対する誇り・愛着を継続して育む。 | ○ 職員が「黙想・無言清掃・目立て」の伝統活動をきちんと指導していると感じている保護者・生徒を90%以上にする。 | B | 形はできているが、心がまだまだ育っていない面がある。よき伝統を守り、先輩達の想いを大切にすることを育みたい。 | ○ 継続指導を望みます。 ○ 卒業してから伝統の素晴らしさを感じると思う。 ○ 小学校と連携した取組が望まれる。 | A |
| 進路指導の充実 | ○ 各学年に応じた進路学習やキャリア教育を通して、自分の将来について真剣に考える生徒を育成する。 | ○ 進路先や将来の職業などについて、自分の考えをもっている生徒を80%以上にする。 | B | 第1学年からの進路の目的意識が育っていない面がある。3年間を系統的に進めるキャリア教育の内容の工夫が必要である。 | ○ 地域にある職場を利用してほしい。 ○ 自分の将来の夢や希望を大切にしたい。 | B |
| 特別支援教育の充実 | ○ 特別支援教育の視点を重視し、合理的配慮の提供など、個に応じた支援などを工夫する。学習指導や生活指導をする。 | ○ 校内支援委員会やケース会議等を週に1回程度実施し、職員の共通理解と実践を図る。 | A | ハートフル委員会の定期開催で次に生かすことができた。さらに全職員で共有できるシステムを構築していきたい。 | ○ 職員の共通理解を深める取組は素晴らしい。 ○ 特別支援教育の視点は、全ての生徒にとって大切なものだと思う。 | A |

【次年度の方向性についての校長所見】
 本校は、生徒たちの様子から県内でも誇れる素晴らしい学校だと自負できる。大きな課題としては、学力向上である。特に全国学力調査の質問回答からも目的意識や家庭での学習時間が、全国平均からも大きく低迷している。次年度は、町教委の尽力により、AIソフトの導入もあり、授業中の活用はもちろん、家庭学習での積極的活用を図り、学力向上に努めたい。全般的な生徒たちの様子については、大変落ち着いており、今年度、学校のきまり・心得についても、生徒自らが考え、決めて、それを自ら判断して守る取組をしたが、このように、生徒自ら考え、行動する姿勢を育てていきたい。教職員については、一丸となって取り組める集団であり、働き方改革を言われる中ではあるが、働きがいのある、風通しの良い職場づくりに努めていきたい。伝統ある高鍋東中をより良い方向に、保護者、地域の協力を得て、前例踏襲ではなく改革改善に努め発展させていきたい。